

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 57 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2021 年 1 月 21 日 (木) 9:30~11:30
2. 場 所 Web 開催 (Webex)
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 中川 (幹事), 大木, 矢野, 新井, 加藤, 右田, 辻, 稲垣, 門間, 古谷, 上山, 吉成, 山上, 遊佐, 一森, 松藤 (17 名)
(欠席委員) 渡邊 (副主査), 橋高, 望月 (3 名)
(常時参加者) 山崎, 長谷川, 赤間, 上野, 牟田, 中原, 中村, 澁谷, 伊藤
(傍聴者) 榎崎
4. 配布資料
 - P14SC-57-1 第56回PLM分科会議事録案
 - P14SC-57-2 PLM実施基準本格改定公衆審査の結果
 - P14SC-57-3-1 PLM実施基準202X年版 (追補 1 案) の確認依頼案
 - P14SC-57-3-2 経年劣化メカニズムまとめ表のうち耐震安全性評価に係る部分の改定方法について
 - P14SC-57-4 長期運転体系検討タスクの状況
 - P14SC-57-5 米国SLRに関する技術情報
 - P14SC-57-説明-1標準委員会における倫理について (2020年版)

5. 議事

会議に先立ち、開始時点での出席委員は 16 名で定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-57-1)

第 56 回 PLM 分科会議事録案が紹介され、承認された。

(2) PLM実施基準本格改定公衆審査の結果 (P14SC57-2)

本格改定の公衆審査の結果、特に意見がなかったこと、3月の標準委員会で制定され、発行に向けて進む見通しであることが報告された。

前回の標準委員会において、世界トップレベルのPLM基準の改定であることを考えると、今回の改定は物足りないというコメントがあったことが報告された。次回改定に向けた課題となるため、意見を文書化して共有することとなった。

(3) PLM実施基準202X年版 (追補 1 案) の確認依頼案 (P14SC-57-3-1,2)

PLM実施基準202X年版 (追補 1 案) の確認結果の報告と、耐震安全性評価に係る事項の改定方法の検討結果が示された。「反映提案の確認」のフェーズまで完了したが、耐震安全性評価に係る検討のために当初の予定より工程を遅らせて、5月のシステム安全専門部会で報告を行うこととなった。耐震安全性評価に係る検討は「反映案への対

応案の作成」のフェーズで、松藤委員と伊藤常時参加者が実施することとなった。

経年劣化メカニズムまとめ表の耐震安全性評価に係る部分は、現状の高経年化技術評価の作成過程で使用実績がないのであれば、改定の重要度は低いのではという意見があったが、PLM分科会としては機能要求があるところだけ耐震安全性評価を行うことにより、安全上重要な課題を選択・集中できると考えており、原子力学会の標準として重要な意義があるために改定を継続していくことを確認した。また、分科会として利用者を増やすための方策を今後検討すべきではないかという意見が出た。

(4) 長期運転体系検討タスクの状況 (P14SC-57-4)

長期運転体系検討タスクの状況について説明され、2021年3月の標準委員会での最終報告に向けて、議論を進めていくこととなった。また、タスクでの議論の結果は都度委員・常時参加者に情報共有することとなった。

・その他コメント

- 用語に関して、「使用前検査」は「使用前事業者検査」、「長期保守管理方針」は「長期施設管理方針」ではないかとの指摘があり、記載を変更することとなった。
- 今後のタスクの流れについて質問があり、1月と2月のタスク会議で議論し、内容をまとめて2021年3月の標準委員会最終報告することが説明された。
- 現状の旧式化に関する記載がすべての旧式化に対応するのかとの指摘があり、旧式化は標準として体系化されていないのでタスクで検討する予定であることが説明された。
- 「具体的なマネジメント要素の記載」の実現方法がPLM標準に記載とあるが、実運用としてPLM標準を使用する人ではなく、JEAC4111、4209を使用する人が担当するのでPLM標準に書いてあると使い勝手が悪いのではないかとの指摘があり、電気協会と議論して記載範囲を検討している段階であると説明された。

(5) 米国SLRに関する技術情報 (P14SC-57-5)

最新の米国SLRの動向について、澁谷常時参加者より報告があった。NRCとEPRIやNEI等産業界が規制上の課題についてコミュニケーションをよくとっているが、米国固有の仕組みなのかという質問があった。米国では公開でNRCと産業界がガイドの内容等について意見交換する場があり、規制側が産業界に意見を聞く文化が根付いていると説明があった。また、100年運転・40年毎の許認可更新に関する説明があり、100年運転に関する会議の開催情報を各委員・常時参加者に送付することとなった。

(6) 標準委員会における倫理について (2020年版) (P14SC-57-説明-1)

倫理教育に関する録画映像を視聴し議論する予定だったが、音声聞き取りづらかったため、倫理教育に関する録画映像を各自で視聴し意見・感想シートを記載する形式とし、後日記載内容を元に議論することとなった。事務局で内容をまとめて原子力学会へ報告する。

以上